



①丸籐は直径は2~3mmのものから5cmくらいまで。編む部分には、丸籐を裂いて皮の部分だけにした、皮籐を使います。②丸籐を蒸したり、熱を加え、器具を使って曲げていきます。③製品の形に合わせる木型に入れます。天然素材である籐には、元に戻ろうとする習性があったため、それも考慮しています。④工程ごとに、職人が担当します。籐にはひずみ、うねり、ねじれなどのくせがあるため、長年の熟練と勘が要求されます。

創造の山
理想の形



上質ないいものを創造する
山形の職人的ものづくりを
このマークで伝えていきます。

ヨミウリウェイでは『山形のいいもの』モニター商品にまつわるストーリーを3月号まで毎月掲載します。

使って実感！試して納得！

山形のいいもの モニターキャンペーン

「山形のいいもの」をお試しいただき、感想・ご意見をお寄せいただくモニターを募集します。

ホームページモニター募集締切 **2月3日 12:00**

★モニターアイテムの返却は必要ありません★

■お問合せは

山形のいいものモニター
キャンペーン事務局

0120-23-1156

受付時間：平日 10:00~18:00

山形県



身の回りのものを
優しくおおらかに納める籐かご



山形のいいもの

#3

ハイルシリーズ
Round-100

(有)ツルヤ商店

モニター商品 3名様

ハイルシリーズ Round-100

乱れかご(高さ100mm)

10,000円(税別)

眼鏡や読みかけの雑誌などのちょっとした小物を入れて。もちろん脱衣かごにも。

籐。「どう」と読みます。東南アジアに自生する植物で、生活用品として私たちの暮らしに入ってきたのは明治期だそうです。山葡萄の皮や、あけびづるなど、山で手に入る材料で籠などをつくっていた会田家では、入手しやすくなった籐を使って脱衣籠や椅子などをつくりはじめました。昭和40年代になると、子どもが口に含んでも害がないと、赤ちゃん用の籐のゆり籠やブランコが大ブームに。椅子、テーブルなどのインテリアも注目されますが、海外からの商品も入ってくるようになり、国内の籐制作は激減したといえます。

会田源司社長は様々なデザインナーとの共同制作を重ねます。そして、つくり手から発信する商品「籐製品の昔ながらの雰囲気を感じさせつつ、洋風空間にふっと持っているもの」をつくりたいと、ハイルシリーズを発表。女性デザイナーの感性を通じたこのシリーズはサイズは昔のものより小ぶり。処理をしっかりと、立ち上がりもスッキリさせ、表面は着色せず、素材の色でナチュラルに仕上げられています。何をどう入れても、きれいに収めてくれる、優しい収納家具です。

(有)ツルヤ商店

住/山形市宮町5-2-27 TEL/023-632-4408

つるや品物店(GALLERY & SHOP) 営/9:00~17:00

休/日祝、土曜不定休、(日祝ご希望の方は要事前相談) 駐/4台程度